PART 1 全体の調査結果

第2章 母親の家事・育児・教育に対する意識

相馬　直子

第1節 子育て観

子育てと自分の生き方とで揺れる母親の心理は各都市共通。一方で、大学進学に対する意識は各都市間の特徴を表している。東京は約7割が「大学進学や学校名にはこだわらない」のに対して、北京や上海の約7割は「世間で名の通った大学」を重視するという、対極の様相が明らかになった。

現在の日本では、都市部での孤立した子育て環境による母親の育児不安・ストレスが社会問題となっている。加えて、少子化の進行にも伴い、子育て支援がますます重要になっている。こうした状況のなかで、日本の都市部の母親は、家事・育児・教育に対して、どのように考え、どのような不安を日々感じているのだろうか。それは、同じ東アジアにおける都市部の母親と比較して、どのような特徴があるだろうか。本章では、①育児・教育に対する意識、②子どもの将来に対する期待、③子育てで力を入れていること、④子どもの進学に対する期待、⑤子育てに対する意識、⑥現在の生活と子どもの成長への満足度に分けて、概観することとしたい。

子育てと自分の生き方との狭間で：母親の微妙な心理

まず、子育てに関する対照的な意見（以下A・B）のうち、どちらが自分の気持ちに近いかをたずねてみた。

「A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」か、「B．母親がいつも一緒でなくても、愛情をもって育てればいい」と感じているか。**図2－1－1**①からは、どの都市でもAの意見を選択した母親が、Bの意見よりも多いことがわかる。

この結果から、「3歳くらいまでは母の手で」と子育てに専念したい母親の姿が想像されるかもしれない。しかし、実際はこのように一枚岩ではない。すなわち、「A．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」か、「B．子どものためには、自分ががまんするのはしかたない」かをたずねたところ、Aの意見を選択した母親がBを上回っている（**図2－1－1**②）。「子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」と思いつつ、同時に「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」という、子育てと自分の生き方の狭間にある母親の微妙な心理がうかがえる。

こうした母親の微妙な心理は、各都市で濃淡がある。東京は「A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」が63.4%、「B．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が64.4%であるが、ソウルは前者が74.9%、後者が52.7%であり、東京とそれぞれ10ポイント前後の差がある。

教育に対する考え方：各都市で共通点の多い2項目

つづいて、子どもの教育により焦点をあててたずねてみた。まず、各都市で違いがあまり大きくない2項目からみてみよう。

第一に、「A．子どもは生まれつき能力が決まっていると思う」か、「B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う」かについて、各都市共通で、80%以上が「B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う」と考えている（**図**

2－1－1③)。

第二に、「A．子どもの教育について、親が判断して選ぶのがよい」か、「B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい」か。東京では71.4%が「B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい」を選択しており、ソウル・北京・上海も同様に70%前後の回答である。台北は54.5%と最も低く、東京とは約17ポイントの差がある（**図2－1－1④**)。

教育に対する考え方：各都市の相違点が浮上した3項目

上記と対照的に、各都市で特徴がみられたのは次の3項目である。

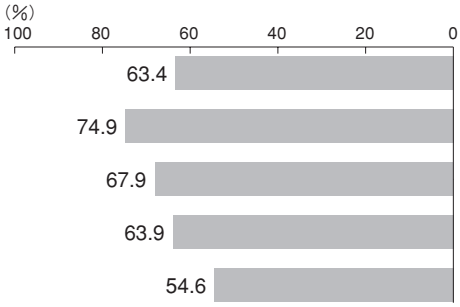
第一に、「A．わがままを言ったら、厳しくしかりつけるのがよい」か、「B．わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい」か。東京は70.2%が「B．わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい」と答えており、数値的には北京（92.9%）とソウル（30.0%）の間に位置している（**図2－1－1⑤**)。これは、各都市での親子規範の差異、とくに、目上の親としての厳格な意識が残っているソウルの特徴があらわれているように思われる。

第二に、「A．文字や数はできるだけ早くから教えるのがよい」か、「B．文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい」か。東京は86.2%が「B．文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい」と答えており、各都市の中で最も比率が高く、就学前の文字や数の習得に対する態度では台北（56.3%）と約30ポイントの差がある（**図2－1－1⑥**)。

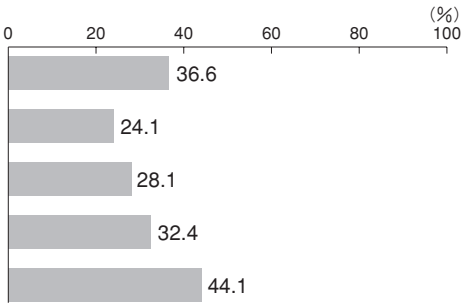
第三に、「A．世間で名の通った大学に通ってほしい」か、「B．大学進学や学校名にはこだわらない」か。これは最も都市別の差異が大きい項目であった。東京は73.1%が「B．大学進学や学校名にはこだわらない」と答えており、次いで台北（65.2%）、ソウル（57.3%）と続く。一方で、北京と上海は東京と対極であり、70%以上（上海79.3%、北京74.1%）が世間で名の通った大学への進学を重視している（**図2－1－1⑦**)。

■図2－1－1　子育て観

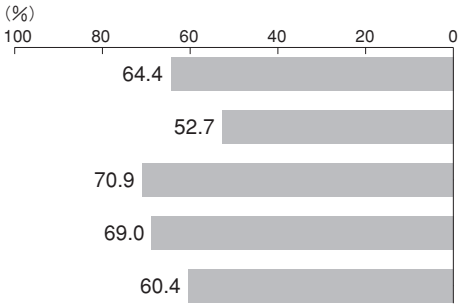
① A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい



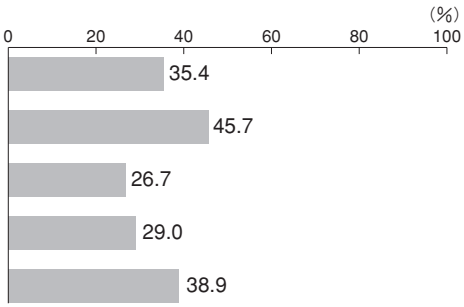
B．母親がいつも一緒でなくても、愛情をもって育てればいい



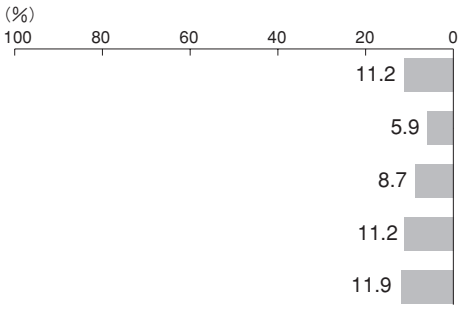
② A．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい



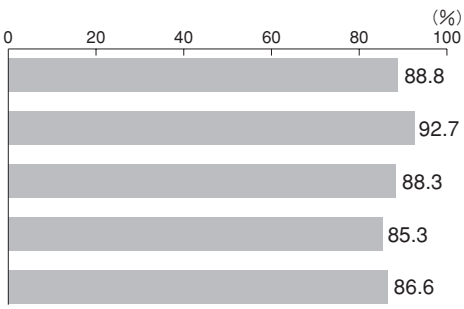
B．子どものためには、自分ががまんするのはしかたない



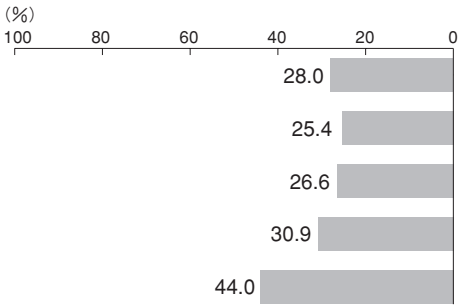
③ A．子どもは生まれつき能力が決まっていると思う



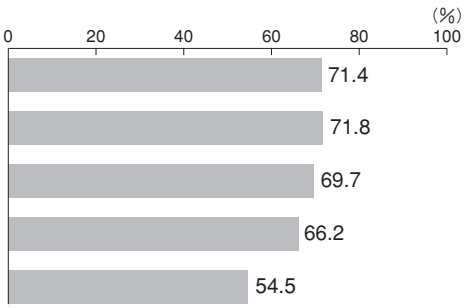
B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う



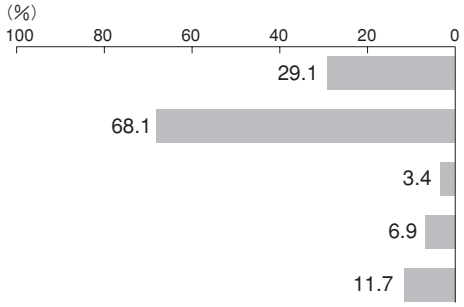
④ A．子どもの教育について、親が判断して選ぶのがよい



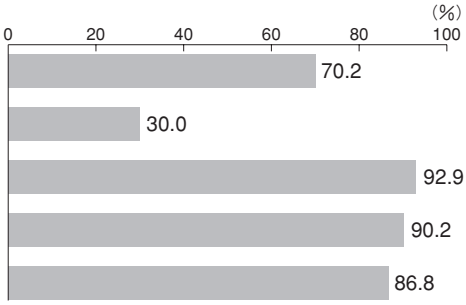
B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい



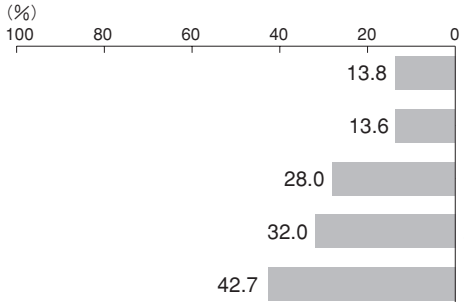
⑤ A. わがままを言ったら、厳しくしかりつけるのがよい



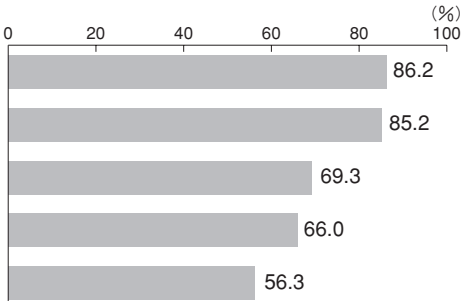
B. わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい



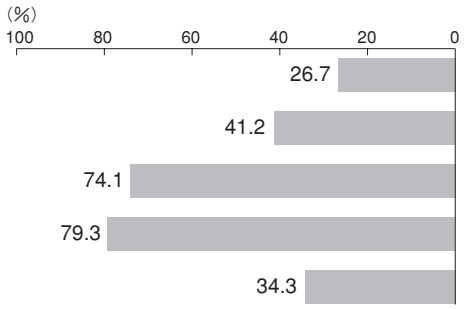
⑥ A. 文字や数はできるだけ早くから教えるのがよい



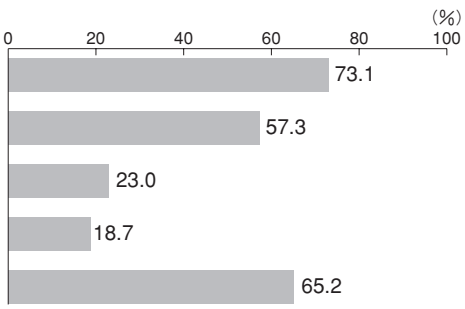
B. 文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい



⑦ A. 世間で名の通った大学に通ってほしい



B. 大学進学や学校名にはこだわらない



注1）母親の回答のみ分析。
注2）無答不明があるため、Aの意見とBの意見の数値を合計しても100%にはならない。
注3）サンプル数は、東京 989人、ソウル 874人、北京 707人、上海 709人、台北 1842人。